関西電気工事工業会青年部連合会「第3回会員大会」を開催

異業種の参加で〝ネットワークづくり〟を図る

関西電気工事工業会青年部連合会（林靖貴会長）は9月28日、午後2時から大阪市内のラマダホテル大阪で「関西電気工事工業会青年部連合会 第3回会員大会」を開催した。大会は第1部「会員大会」、第2部「研修会」、第3部「懇親会」の3部構成で、とくに今回、異業種の参加による会員大会をめざし、近畿ブロック青年中央会の幹部、そして親会（関西電気工事工業会）の首脳も参加して討議、研修をはかった。

会員大会に先立って林靖貴会長は「今大会はこれまでの会員大会とは違うものにするために、近畿ブロック青年中央会のご協力により、異業種の方も参加していただき、新しいものをめざしていくことになった。業界のPRと業界のネットワークの強化である」とあいさつし、会員大会への期待を述べた。

あいさつする林会長

◎第1部　会員大会

最初に相互団体の紹介、PRを行い、続いて意見交換会を行った。

相互団体のPRでは関西電気工事工業会青年部連合会が電気工事業界における青年部が今日まで歩んできた足跡をDVDで全日電工連50周年、全国青年部協議会10周年のもようを上映、紹介した。そのなかで電気工事業界における青年部の在り方を追求し、歴史、そして組織、規模、活動状況などを解説した。

記念撮影

首脳陣

関西電気工事工業会青年部連合会　第3回会員大会

続いて近畿ブロック青年中央会の渡邉修司会長が単組運営、事業などを紹介した。

「青年中央会は全国団体で、会員組合は平成25年に3万8千くらいの組合が加入しております。そして各ブロックに組合が近畿ブロックはその一つであります。府県レベルで組織しておりますが、中央会の目的はいままで親睦が目的であった。これでは時代に取り残されるだろうということで、今日ではビジネスを核にもってきております。仲間から購入することが第一になっており、ビジネスを核にした団体をめざしております。ではビジネスとはどういうことを実際にするのか。異業種の仲間が参加しておりますので、互いに仕事を連携していける方向に協力、業界を発展させることを目的にしております」

第1部の司会を担当する藤田氏

第2部「研修会」

講師を務める横張氏

意見交換会では①業界のPR②関係団体のネットワーク作りを目的に話し合った。テーマは「青年部に入って良かったこと、悪かったこと」。各テーブルに分かれて電気工事業界と青年中央会の幹部、そして関西電気工事工業会の向山和義会長はじめ、主要幹部が参加し、討議した。

なお、近畿ブロック青年中央会のメンバーは福井県農業機械商業協同組合、伊丹菱栄会　丹青会、大阪府テントシート工業組合、大阪府被服工業組合など24人が参加した。交換会終了後、内容を発表した。

◇良かったこと

①仲間作りが重要②クラブ活動を通じて全国でネットワークを実現した③井の中の蛙でなくなった④交流の強化⑤人との出会い⑥人前でしゃべれるようになった⑦横のつながりができて、仕事が広がった。

◇悪かったこと

①忙しすぎて、家庭が崩壊する可能性があった②親会のプレッシャー③歳をとったのに、まだ青年部なのか。若人を入れてほしい④出費が痛い。

第2部の司会を担当する宮原氏

第1部「会員大会」で近畿ブロック青年中央会を紹介する渡邉会長

意見交換会

◎第2部　研修会

研修会のテーマは「ライバルに戦わずして勝つ5×3×2戦略」。講師は横張正巳氏（㈱フォーバル）

横張氏は最初に現在の経済環境、そして今後の経済動向を解説。

「人口減少のなかで、企業経営を今後どうしていくか。厳しい市場を乗り切っていくためには、自ら市場を創造していくことが重要である。これを実現するためには過去の経験、先入観念にとらわれるのではなく、視点を変えてものを見る必要がある」

具体的にいま日本でみられる現象を各テーブルに投げかけ、質疑形式で進め、最後に企業は「経済性」「独自性」「社会性」の順で経営しているが、これからは「社会性」「独自性」「経済性」の順で対応していくことが重要だとした。

◎第3部　懇親会

懇親会では、最初に林会長が「この7月に会長に就任いたしまして、事業計画の核に『ネットワークのさらなる強化』をあげております。これを推進することで、横のつながりができ、組合活動がさらに活発になると思います。また堀口前会長がこのたび全日電工連に就任しました。先日、兵庫県の中央会さんから兵庫から会長が選出されたことは、中央会として大いに応援していきたいと話されました。我々としても支部を活性化し、それを全国レベルまで拡大していきたい」とあいさつ。

第3部懇親会であいさつする林会長

祝辞を述べる上から向山関西電気工事工業会会長、堀口全日電工連全国青年部協議会会長、渡邉近畿ブロック青年中央会会長

続いて来賓を代表して向山関西電気工事工業会会長が「青年部は高齢化が進んでいる。とくに課題になっているのが、青年部を終えた後、親会で活躍する機会がない。なんとかしてほしいといった声が先般ありました。しかし、難しい面もあります。50代の方が親会でどこまで活躍できるか。そこで先ほどの意見交換会で第二の青年部をつくったらどうかというご意見がありました。進化していく皆様方を頼もしく感じております。

長きにわたって続いた配線設計コンクールが今年をもって終了となりました。電気設備を構築するには配線設計は非常に重要で有ります。できれば私ども援助させていただきますので、青年部の方で対応していただければと思います」と青年部への期待を述べた。

全日電工連青年部を代表して堀口繁全日本電気工事業工業組合連合会　全国青年部協議会会長が「今回の大会とは違うものにするために、近畿ブロック青年中央会のご協力により、異業種の方も参加していただき、新しいものをめざしていくことになりました。

主旨は業界のPRだけでなく、各業界ネットワークの強化でもあります。我々は地域に根差した社会貢献活動をはかってきましたが、まだ十分ではありません。きょうは関係団体の皆様方と話し合い、我々の業界への理解を求めたいと思います。

異業種の皆様方とネットワークづくりを行い、少しでも理解し、理解されていただければと思います。

乾杯の音頭をとる西野関西電気工事工業会副会長

林会長あいさつ

今大会はこれまでの会員大会とは違うものにするために、近畿ブロック青年中央会のご協力により、異業種の方も参加していただき、新しいものをめざしていくことになりました。

主旨は業界のPRだけでなく、各業界ネットワークの強化でもあります。我々は地域に根差した社会貢献活動をはかってきましたが、まだ十分ではありません。きょうは関係団体の皆様方と話し合い、我々の業界への理解を求めたいと思います。

異業種の皆様方とネットワークづくりを行い、少しでも理解し、理解されていただければと思います。

懇親会で司会の荻野氏

意見交換会を拝見させていただいて、皆さんは非常に前のめりになって話しておられました。青年部に入って良かったことは、皆さんに会えたことで。悪かったことはなかなか。悪かったことはなく、大変であったことです。

皆さんも同じではないでしょうか。全日本の方は全国一本化することが念願であります。支部から一度でもいいから一本化してやってみたい。各支部がバラバラでなく、同じ日に全国で同じことをやる。情報もすぐに伝達できるようにしたい。いまご意見を求めており、まもなく発表する予定でございます。ぜひご協力をお願い申し上げます」と青年部の今後の方針を述べた。

近畿ブロックを代表して渡邉近畿ブロック青年中央会会長が「先ほどの意見交換会では非常に生々しい話に感動致しました。また研修会では自ら市場を創る必要があるという指摘がありましたが、大変勉強になりました。また電気工事業界が推進しておられる提案型技術営業について、我々も学んでいきたい。ぜひ一緒に市場を作れればと思いがあります。今後も宜しくお願い致します」と今後への期待を述べた。

最後に西野正則関西電気工事工業会副会長の乾杯の音頭で懇親に入った。